

癌化学療法名 胃癌 (CDDPなし)トラスツズマブ+カペシタビン+シスプラチン療法 3週毎

実施部署	外来・入院	1クール日数	21day	承認済 2014/2/13
番号	抗がん剤名・略称	1日投与量	投与方法	投与日
1	トラスツズマブ: ハーセプチン	初回8mg/kg 2回目以降6mg/kg(投与期間が4週間を超えた時は8mg/kgに戻す)	div.(点滴静注)	day1
2	カペシタビン; ゼローダ	2000mg/m ² /日	内服	day1~14 1日2回朝夕食後,1週間休薬
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・カペシタビンシスプラチンともに腎障害時には排泄遅延による副作用増強のおそれあるため、腎機能に応じた投与量であることを確認 ・カペシタビン用量(1日量) 体表面積1.36m²未満;2400mg(8錠)、1.36~1.66m²;3000mg(10錠)、1.66~1.96m²;3600mg(12錠)、1.96m²以上;4200mg(14錠) ・トラスツズマブは初回は90分で投与し、インフュージョンリアクションがなければ2回目以降は30分まで短縮できる* ・シスプラチン中止でトラスツズマブ単独点滴静注の場合は、催吐性リスクは低いため制吐剤は不要。 ・好中球1500/mm³以上、血小板10万/mm³以上、T-Bil ULN×1.5倍以内、AST/ALT ULN×2.5倍以内、Ccr60mL/分以上 ・過敏反応予防としての前投薬は不要 ・カペシタビンの手足症候群(HFS)は高頻度に発現するため注意 ・NCCNガイドライン2009をもとに、プリプラチン60mg/m²は高度催吐性リスクに相当するため、イメンド(成分名:アプレピタント)125mg+グラニセトロン(5-HT₃受容体拮抗薬)+デキサート注9.9mg(デキサート注)3剤併用が推奨される。 			

投与日	薬剤名	ルート	時間
day1~14	ゼローダ錠300mg 2000mg/m²/日	内服	朝夕食後
day1	① 生食 50mL ② ハーセプチン注射用 + 生食250mL ③ 生食 50mL	フラッシュ 点滴静注 フラッシュ	90分*